

## 演題名

免疫チェックポイント阻害薬による薬剤性肺障害再燃例の臨床的検討

## 抄録本文

【背景】免疫チェックポイント阻害薬（ICI）投与後の薬剤性肺障害では治療中に再燃を生じることがある。

【目的】ICIによる薬剤性肺障害再燃例の臨床像を明らかにする。

【対象・方法】2016年1月から2018年8月までに、浜松医科大学附属病院及び共同研究施設においてICIを投与した肺癌患者594例のうち、ICIによる薬剤性肺障害を生じ、ステロイド導入後に再燃を認めた症例について診療録を用いて後方視的に検討した。

【結果】ICIによる薬剤性肺障害を生じた79例中55例（69.6%）でステロイド治療が行なわれた、そのうち10例でステロイド導入後に肺障害の再燃を認めた。再燃例は男性9例、女性1例、ICI投与時の年齢中央値は73歳（59-86歳）であった。ICIはNivolumab7例、Pembrolizumab3例で、肺障害発症までの投与回数中央値は2回（1-8回）。初発時の画像所見はDADパターン5例、OPパターン3例であった。再燃後、次の化学療法が実施できたのは2例であり、2例は肺障害のため死亡した。

【結論】ステロイド導入後に再燃したICIによる薬剤性肺障害は、その後の治療に影響する可能性がある。